



## 「暑い熱い2004年の夏」

今年の夏は暑い「猛暑」です。7月に東京に行ってきましたら、なんと東京の観測史上初という39.5度の暑さを体験してしまいました。そのせいか、香川での33～4度の気温が、まだましという感じがいたしますが、熱帯夜には悩まされている今日この頃です。この香川の暑さをさらにヒートアップさせているひとつが「世界の中心で、愛をさけぶ」、そう話題の『セカチュ』でしょう。片山恭一著のこの作品が映画化されロケ地のひとつ庵治町は夏休みに入り、カップルはもちろん全国からツアーも企画され多くの方が訪れているようです。純愛小説のこの作品本は数年に1度というベストセラー、映画も観客動員をのばしていますし、各方面で発表されている上半期の話題ランキングではいつも上位に入っています。小説と映画という相乗効果もあり大ブレイク！うどんブームの次にセカチュブームがくるとは誰が思っていたことでしょうか。で、その「世界の中心で、愛をさけぶ」のロケ地庵治町に先日ラジオカーで行ってまいりました。まず主人公の二人が高校時代乗ったという皇子神社の青いブランコに乗ってみました。御殿山の中腹にある皇子神社、急な階段を登っていくと広場になっていましてブランコがあります。このブランコどこにでもある子供用サイズで大人にはかなり小さいものです。が・・・やはり乗る人が多く最近になって補強しておりました。ここ皇子神社での醍醐味はもうひとつ、景

色がすばらしいこと、正面には庵治の海が広がり、左手には八栗の山が、右手には屋島（裏屋島とよばれている場所）がみえます。なんとも雰囲気のある場所でした。「ええとこやぁなぁ・・・」思わずつぶやいていました。次に向かった場所が写真館のあったロケ地、庵治の役場をまっすぐ北に進んだ四つ角の北西側に映画の中でも重要なポイントとなる洋館の写真館がありました。残念ながら、現在は取り壊され駐車場となっています。ちょうど反対側の角には寺井産業という会社がありまして、ロケの様子を詳しく伺うことができました。笑顔のよく似た寺井夫妻。最初ご主人は会社の前がロケの現場になるのは大反対、仕事の邪魔になるからと断っていたそうですが奥様のほうがこんな機会はめったにない、どうぞどうぞ、といことでロケ地となりその結果、撮影の続く半月は仕事に全くならなかつたもののお二人とも貴重な経験ができたと喜んでおられました。現在はなんと、全国からロケ地を訪ねてくる人に撮影の裏話をしているということで、多い時にはそれこそご飯を食べる暇もないとか、また映画の中にはないシーンですが、行定勲監督が庵治の中でも最も好きだった場所は、この四つ角、この場所は海へと続く道があり海の向こうには屋島が小さくみえます、夕日が沈む頃はとくにすばらしく、この場所に住む寺井さんご夫婦も太陽向かって自然と手をあわしてしまうほど美しいとおっしゃって

いました。ここの景色は日本一だとも。次に訪ねたのは、お食事処「あじみなと・番所」。映画の中ではお葬式のシーンが駐車場で撮影されました。ここがまた不思議な場所でもともととは庵治の網元(その昔は士族だったとか)で漁の網の塩を落とす釜場でもあったといひます。ですから釜場の後として大きな一枚石の井戸やレンガの煙突というレトロなものが残っています。大広間風の部屋もありますが一日一客しかとらないまさに囲炉裏の部屋もありました。駆け足ではありましたが庵治の町を歩いてみると「へー庵治にこんなところがあったのか」と再発見するところが多く、実のところ映

画を見ていなかった私でもさえも楽しめましたので、映画をみた人であればもっと楽しめるのだらうなあーと思ったものでした。聞くとところによると映画のロケ地の選択はかなり難攻していて、行定監督が最後に訪れた場所が庵治町、来るなり一目でこの庵治で映画をとりたいたったそうです。いつも何気なく通っている町の角や小道、どこにでもある町並み、そのすばらしさを見過ごしていることが多いのかもしれませんが。少し涼しくなったら住んでいる町を歩いてみようかと思っています。歩いてみるといういろいろなところに新しい発見がありそうなそんな気持ちなれたロケめぐりでした。

### 庵治ロケの 風景！



町にはちゃんとロケの案内看板があります



皇子神社の鳥居ここから登ります



ロケの写真も・・・



あじみなと・番所の煙突と井戸